

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700187		
法人名	社会福祉法人 清水新生会		
事業所名	グループホーム かがやき荘		
所在地	坂井市三国町陣ヶ岡13-3		
自己評価作成日	平成 30年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを行い、個々に対応することで出来るだけ本人に合った楽しみ方を見つけ、本人の思いを尊重し過ぎていただけるよう支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は東尋坊を有する国定公園の自然林の中にあり、三国港駅から徒歩24分と交通の便も良い環境である。周囲には、神社・小学校・区民館や他の介護施設がある。事業所に面した幹線道路は桜並木で、天気の良い日は自然豊かな環境の中をさわやかな風を感じながら散歩を楽しんでいる。同系列の法人事業所(特別養護老人ホーム・小規模多機能型介護施設・訪問看護事業所)が併設され、それぞれの専門性を活かし、連携を図りながら支援を行っている。交流ホールがあり、地域住民に開放している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議・事業所会議の後等に理念を合唱している	法人の理念を会議の後に唱和し、個人目標を年度初めに掲げている。グループホームとしての理念も作成してあるが、職員の異動の際に理念について具体的内容を話し合う意向がある。	職員間でグループホーム独自の実践目標の作成や独自の理念の再確認を行い、事業所が目指すケアを実現するための個人目標を掲げる等、職員全員によるサービス向上に向けた取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に協力、参加したり施設の行事に声をかけたり交流を図っている	交流ホールを地域住民に開放している。職員は地域との交流を活性化を目指し、併設事業所全体の夏祭りや地域の祭りで積極的な交流を図っている。法人内の地域包括支援センターは介護講座や認知症講座も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献について、地域の中学生の職場体験を受け入れる等、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長や民政委員、ご家族様代表、ご利用者代表、広域連合代表で構成している運営推進会議、そこで出た意見をサービス向上に役立たせている	併設事業所全体で区長、民生委員、家族、利用者、地域包括支援センター等を構成メンバーとして2か月に1回行っている。事業内容を報告し、そこで出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と情報交換等をしなが、協力関係を築いている	市直営の地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席した際に事業の協力をお願いしたり、介護保険について相談をするなど連携を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会も実施しており、拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルが法人にあり、身体拘束のないケアについて、職員で話し合って日々のケアに取り組んでいる。法人内研修や外部研修にも職員それぞれが参加できるようにしている。事業所の出入り口には、監視カメラなどはなく、施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員間で虐待に関する勉強会を開いている。職員間でも虐待を見逃さないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個人個人で学ぶ機会を得ているが、それについての話し合い等は実施されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に必ず契約書や重要事項説明書等によって説明し、理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する体制等、マニュアルに基づき意見が反映されるように努めている	家族の来訪時や家族会などに意見や要望を聞いている。利用者からは日々の会話の中で聞き取りを行っている。出された意見や要望は職員間で共有し、迅速に対応している。意見箱の設置や家族会の開催も予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営会議等を通じて意見を反映させている	管理者と職員の関係は話しやすく良好であり、日常的に職員の意見を聞き取り、すぐに反映できることは、直ちに実践につなげている。検討と報告がなされ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内外部の研修を進める等、向上心を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長会やケアマネ会等、勉強会の活動を通じて、情報のやり取りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との話し合いを持ち、要望等を聞き取り、本人の安心を得られるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時やサービス担当者会議にご家族とお話しをし、不安な事や要望に耳を傾けている。又、身体レベルを伝え相談もしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応と見極めの支援については、最初をどうしていくかを考え、必要な事から支援できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は自分でしてもらう事で意欲を高め、職員とできるだけ対等な関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人の為に出来る事を職員から提案し、一緒になって本人を支えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のみならず、なじみの人も含め、いつでも来ていただけるように努めている	知人や友人等の来訪があり、楽しい時間を過ごすこともある。知人や友人との手紙のやり取りや電話のやり取りの支援を行っている。自宅の状態が心配になる時など、一緒に自宅を見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で気の合う人のそばで過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係が切れないように家族からの相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意向の把握に努めている。プランに合わなかったり、違った意向があれば、意向に沿うよう検討している	利用者との会話や日頃の関わりでの表情等から思いや意向を把握し、適切な対応に努めている。把握が困難な場合は、家族の意向を確認している。職員間で利用者の意向についての話し合い、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスや面会時に今までの暮らし方などをお聴きしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント等において、暮らしの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを用いて、家族やケアマネと事業所会議を用いて職員間で話し合い、ケアプランに反映している	担当職員による月1回のモニタリングを行い、結果をもとに介護計画を作成。家族の参加のもと6か月に一度サービス担当者会議を開催し、家族・利用者の意向を反映した介護計画を作成している。体調等急激な変化の際、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が細かく記録に残し、情報を共有しながら見直しに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に対応してニーズをとらえ、柔軟に対応できる様心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のこれまでの仕事や趣味、背景をとらえ、本人ができる事を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけ医と当方の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族に受診の付添いを依頼しているが、家族が受診に付き添えないときは、職員が同行している。主治医とは、文書で情報を提供している。受診後は、家族から受診結果を聞き取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談しながら、利用者が受診や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しても本人の様子を見に行ったり、家族や入院先の病院とも連携を取ったりしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても安心して過ごしていただけるよう、家族等とも話し合い情報を共有している	法人の重度化・終末期のマニュアルはあるが、事業所独自のマニュアルについては職員で話し合いながら、作成する予定である。重度化・終末期を見据え安心して過ごせるよう、利用者の思いの把握、家族との連携、情報共有など支援体制の整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部勉強会を開いたり、マニュアルを共有し実践ですぐ使えるよう指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、災害対策や対処法を身に付けられるようにしている	消防署の指導のもと、年2回、夜間・火災を想定した避難訓練を実施している。火災時は法人内での連携体制があり、地域住民にも連絡が入っている。災害時には隣接する施設との協力体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に注意している	人格や尊厳を尊重し、誇りを傷つけない支援に努めている。利用者個々の気持ちに対応した介護を行い、職員が不適切な発言をした際には、管理者は施設長に報告し、ミーティングで話し合っている。	職員間での知識の伝達や学びの成果が見えず、一人ひとりを尊重したケアの定着が難しい。尊厳やプライバシーの尊重について、全ての職員が学んだ事を共有できたり、共に学べるシステム作りに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表してもらうため、飲みたい飲み物や、やりたいことを聞いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合よりも本人のペースを大切に、極力その人の生活スタイルを重視している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整った身だしなみになるよう日々支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや力を活かしながら、食事を楽しめるよう支援している	利用者は馴染みの食器を使用し、会話をしながら楽しく食事をしている。メニューの中には、家庭菜園で収穫した野菜を使うこともある。職員は傍らで見守りや介助を行っている。おやつ作りでは利用者が積極的に調理に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせて食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けて出来る事はやってみよう等、一人一人の能力に応じた支援を行っている	共用空間に3か所トイレがあり、広く利用しやすい。排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行ったり、利用者の身体状況に合わせてパット等を利用したりしている。パットを利用する方には事前にトイレにパットを用意するなどプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックと牛乳等の水分の提供や体を動かす等の働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決めているが、本人の体調や好みに合わせて気分よく入浴できる様支援している	脱衣室にパネルヒーターが設置され、ヒートショックを起こさない配慮がされている。浴室も広く車椅子での対応もでき、リフトも設置され浴槽での入浴が楽しめる。事業所内での入浴が困難な時は、隣接する事業所の浴室が利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルやその時々状況に応じて休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法容量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望や季節のイベントに合わせて外出できる様支援に努めている	自然豊かな環境と広い敷地を利用し、天気の良い日は散歩や日光浴を行っている。外出は、希望に応じた少数人で行うよう努めている。買い物やドーナツ店に行ったり、コスモス畑へドライブに行くこともある。その他、外出希望の施設について、安全に外出できる場所を調べ、楽しい外出になるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際は現金を所持し買い物を楽しんでもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している	共有空間の壁面には行事写真が掲示され、入口には季節ごとの飾り物がある等、季節感を感じる空間になっている。大きなガラス戸からは自然豊かな景色や家庭菜園の野菜の成長等を見ることができ、明るく快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	居室は窓も大きく、明るく、整理整頓されている。室内には使い慣れた好みの家具やテレビが置かれ、利用者と職員が作成した写真立て等も飾られており、居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の「出来る事」「わかる事」を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している		